

○職員に求められる能力

「市町村合併にともなう県立生涯学習センターの役割と機能に関する調査研究」報告書(平成18年3月)

地域の実態と課題をとらえる力

実際に事業を企画・実施・評価する過程において職員間での学び合いが生じ、事業の振り返り(事後評価)を行うことによって、次のプログラムに生かしていける実践的研修

現代的(地域)課題に取り組む力

職員の連携・協働に対する意欲を高め、それを推進するための能力開発を支援することが重要

学習プログラム開発に関する研修

○実施した研修

平成21年度 生涯学習人材モデル研修事業(三次市・海田町)



平成22～24年度生涯学習振興・社会教育関係職員等研修 上級研修・初級研修

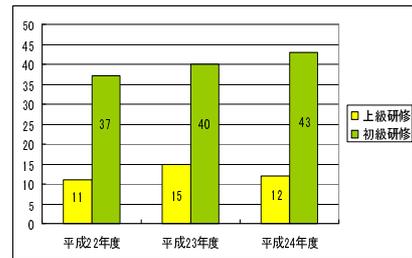


○初級研修の内容(2週間おきに4回の連続講座)

回	方法	内 容
1	講義	「生涯学習振興と社会教育行政のあり方及び関係職員に求められること」
	講義演習	「学習プログラム開発の理論と手法」 ・地域課題を解決するプログラム開発の視点 ・学習プログラム開発の実践紹介
2	演習	「学習プログラム開発の実際」Ⅰ ・課題把握、ねらい・目標設定
3	演習	「学習プログラム開発の実際」Ⅱ ・個別事業計画と各回の計画作成 ・作成した学習プログラムへの評価及びリデザイン
4	演習	「学習プログラム開発の実際」Ⅲ ・リデザインと発表準備 ・作成した学習プログラムの発表及び評価



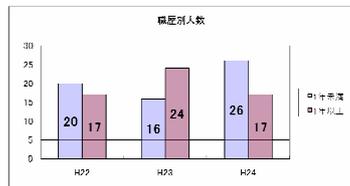
○過去3年間の研修受講者



	上級研修	初級研修
総受講者数	38	120
参加自治体 (/全23市町)	15(65.2%)	22(95.7%)

2. 初級研修(H22～24)の分析

○初級研修受講者の属性(職歴と所属)



○研修を実施する中で気になったこと

- ・研修で学びたいことが、経験年数によって違うのではないか
- ・1年目と1年目ではない人との研修内容の学習理解度について、差が生じているのではないか、理解度にバラつきがあるのではないか



仮説: 1年目の職員と1年目ではない職員との研修に対するニーズは異なり、研修の内容の理解度に差が生じる。

○3年間の事前アンケートの集計 「研修に期待すること」

トップ3

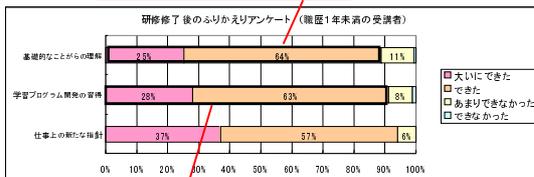
	職歴1年未満	職歴1年以上
1	生涯学習の基本事項に関すること (52.3%)	学習プログラムに関すること (49.1%)
2	学習プログラムに関すること (32.3%)	生涯学習の基本事項に関すること (43.6%)
3	業務に関すること (16.9%)	受講者自身に関すること (18.2%)

1年目の職員と1年目ではない職員との研修に対するニーズは異なっている。

○3年間の事後アンケートの集計

1年未満

基礎的なことからの理解 89%

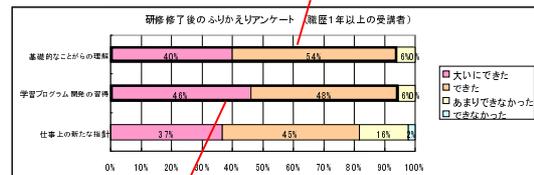


学習プログラム開発の習得 91%

○3年間の事後アンケートの集計

1年以上

基礎的なことからの理解 94%

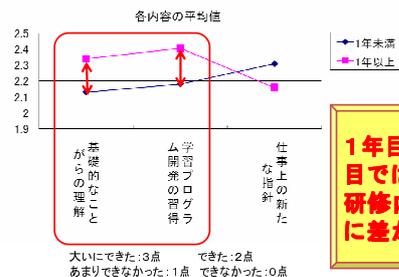


学習プログラム開発の習得 94%

研修内容については、職歴関係なく概ね理解している。

○「大いにできた」の割合

職歴	基礎的なことからの理解	学習プログラム開発の習得
1年未満	25%	28%
1年以上	40%	46%



1年目の職員と1年目ではない職員との研修内容の理解度に差が生じている。

仮説: 1年目の職員と1年目ではない職員との研修に対するニーズは異なり、研修の内容の理解度に差が生じる。

	職歴1年未満	職歴1年以上
1	生涯学習の基本事項に関すること (52.3%)	学習プログラムに関すること (49.1%)
2	学習プログラムに関すること (32.3%)	生涯学習の基本事項に関すること (43.6%)
3	業務に関すること (16.9%)	受講者自身に関すること (18.2%)

職歴	基礎的なことからの理解	学習プログラム開発の習得
1年未満	25%	28%
1年以上	40%	46%

1年目の職員と1年目ではない職員との研修に対するニーズは異なり、研修の内容の理解度に差が生じる。

3. 初級研修プログラム改善案

改善の3つの視点

- (1) 期待されている研修に確実にこたえる
- (2) 初級研修は、多くの会場で実施する
- (3) 学習プログラム開発に関する研修の充実

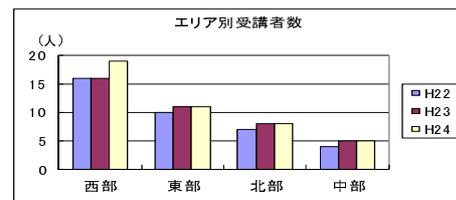
(1) 期待されている研修に確実にこたえる

- 職歴1年未満の職員が期待していること
「生涯学習に関する基本事項に関すること」(52.3%)
「業務に関すること」(16.9%)
- 職歴1年以上の職員が期待していること
「学習プログラムに関すること」(49.1%)



職歴が1年未満の職員と1年以上の職員は研修を区別する必要がある

(2) 初級研修は、多くの会場で実施する



西部: 4市5町 東部: 4市1町 北部: 4市1町 中部: 3市1町

旅費の面で…

施設職員は出にくいんだよね〜

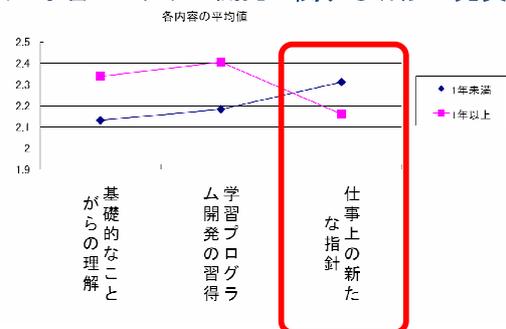
4回はちょっと…

- 平成24年度、広島県内で初めて生涯学習振興・社会教育関係職員となった職員数は**120名**、初級研修を受講している職員の職員数は**43名**
- 研修会場への物理的な距離の問題

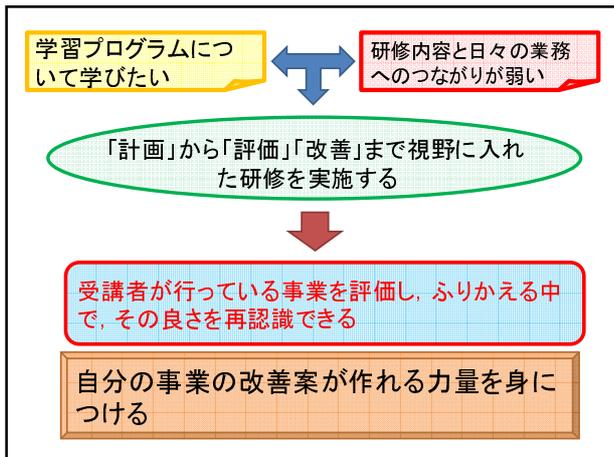


広島県内4会場で実施し、1日で完結する研修を行う

(3) 学習プログラム開発に関する研修の充実



研修内容と日々の業務のつながりが…



改善案 1

★職歴1年未満の職員を対象とした研修★

- ねらい 生涯学習振興・社会教育行政に初めて携わる職員にとって、職務上必要な基礎的な知識・技能の習得を図る。
- 会場 県内4会場
- 回数 各1回

方法	内 容
講義 演習	生涯学習の基本事項
講義	生涯学習振興・社会教育関係法令
講義	国・県の動向
演習	生涯学習振興・社会教育行政職員の役割等

改善案 2

★職歴1年以上の職員を対象とした研修★

- ねらい 事業や講座等を実施している職員にとって、職務上必要な学習プログラムに関する企画・立案能力の向上を図る。
- 会場 県内2会場
- 回数 各3回

方法	内 容
講義	学習プログラム開発の理論と手法
演習	学習プログラム開発の実際Ⅰ 個別事業計画作成(課題分析、ねらいや目標の設定、評価等)
演習	学習プログラム開発の実際Ⅱ 個別事業計画と各回の計画作成 発表・相互評価
演習	学習プログラム開発の実際Ⅲ まとめと発表準備
発表	作成した学習プログラムの発表及び評価 担当事業の改善案の交流

Qとして、担当事業の評価、ふりかえり、改善案を考える

4. まとめ

★3年間、実施した初級研修は、受講者の研修の内容面での肯定的評価も高い。また、修了後の変容もみられ、生涯学習・社会教育に関する基本的な知識や技能を身につけるために効果的な研修であった。

★アンケート結果から初級研修を見直してみると、経験年数によって、ニーズが違い、理解度も違うことが分かった。

★次年度に向けて、この改善案を提案しています。次年度の研修もよりよいものにしようと思っておりますので、よろしくお願いします。

参考文献

- ①国立教育政策研究所社会教育実践研究センター『生涯学習推進センター等の新たな役割に関する調査研究報告書』(平成21年度社会教育事業の開発・展開に関する調査研究事業)2009年
- ②中国・地域づくり交流会「楽習の場づくり研究会」『市町村に対する実態調査報告書』(平成16年度文部科学省委託事業「社会教育活性化21世紀プラン」市町村合併に伴う県立生涯学習センターの役割と機能に関する調査研究)事業)
- ③広島県社会教育活性化推進委員会(広島県立生涯学習センター)『市町村合併に伴う県立生涯学習センターの役割と機能に関する調査研究』報告書<資料編>(文部科学省委託事業「社会教育活性化21世紀プラン」)平成18年
- ④広島県社会教育活性化推進委員会(広島県立生涯学習センター)『市町村合併に伴う県立生涯学習センターの役割と機能に関する調査研究』報告書<理論編>(文部科学省委託事業「社会教育活性化21世紀プラン」)平成18年
- ⑤平成22年度日本生涯学習学会発表資料『広島県立生涯学習センターと高等教育機関の連携による社会教育関係職員研修の成果と課題』葛原生子・志々田まなみ・徳重宏美・新田憲章・山川肖美
- ⑥平成23年度日本生涯学習学会発表資料『連携・協働のプラットフォームを構築する広島県生涯学習センターの研修事業の試み』清岡祐二・葛原生子・志々田まなみ・新田憲章・山川肖美
- ⑦平成24年度日本生涯学習学会発表資料『市町村の自主的な研修活動を支援する広島県立生涯学習センターの「地域課題対応研修支援」の試み』加藤浩司・葛原生子・志々田まなみ
- ⑧生涯学習e辞典『社会教育関係職員研修の成果と課題』志々田まなみ・平成24年

御清聴ありがとうございました。